令和８年度全国学力・学習状況調査 結果概要

摂津市立第一中学校

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

2. 実施日　国語・数学：令和8年4月23日　／　英語3技能：令和8年4月22日・28日

3. 調査対象　中学校第3学年の生徒

4. 調査結果概要

【国語】本校の平均正答率は大阪府・全国を上回る。

平均正答率は 65%で、大阪府（以下「府」という）61%、全国 63.9%を上回った。領域別では「話すこと・聞くこと」66.7%、「書くこと」68.1%、「読むこと」65.4%と、いずれも府・全国を上回り、思考・判断・表現も 66.7%と高い結果であった。文章の構成や根拠を意識して読み、自分の考えを整理して表現する力が育っていると考えられる。一方、知識・技能は 63.3%で全国 64.2%をわずかに下回った。語句や文のきまりを、読むこと・書くことの中で繰り返し活用し、確かな力として定着させたい。また、生徒自身が身についた力を実感できるよう、学習目標や評価の観点を具体化し、成長を言葉にして価値付けていきたい。

【数学】本校の平均正答率は大阪府・全国を上回る。

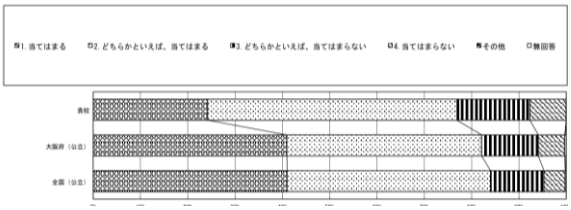
平均正答率は 63%で、府 55%、全国 57.0%を上回り、全領域で府・全国を上回った。特に思考・判断・表現は 49.9%で、全国 39.1%を大きく上回っている。質問紙でも「数学が得意」「好き」「授業がよく分かる」と回答した生徒の割合が高く、学習内容を理解し、問題に取り組む手応えが自信につながっていることがうかがえる。今後は、答えを求めるだけでなく、どのように考えたのか、なぜその方法を選んだのかを説明し合う活動を充実させたい。さらに、数学の学習内容そのものだけでなく、筋道を立てて考える力や数量を用いて判断する力が日常生活や社会で役立つことを実感できる課題を取り入れていきたい。

【英語3技能】本校の平均正答数・IRT スコアは大阪府・全国を上回る。

平均正答数は 4.1／7 問で、府・全国の 3.7 問を上回り、平均 IRT スコアも 523 で府 498、全国 499 を上回った。読むこと・書くことは 3.0／5 問で府・全国の 2.5 問を上回る一方、聞くことは 1.1／2 問で全国 1.2 問をわずかに下回っている。質問紙では「英語が得意」「好き」とする回答が府・全国を上回っており、学習への前向きな意識も見られる。今後は、語彙や文法を学ぶだけでなく、既習表現の中から必要なものを選び、自分の考えや経験を伝え合う時間を確保したい。また、聞いた内容を捉えて応答する活動や、まとまりのある英文を書く活動を継続し、英語を実際に使って伝わる喜びを感じられる授業をめざしたい。

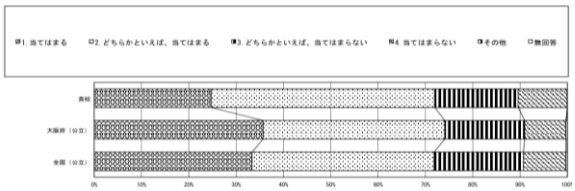
生徒質問紙より ― 学校生活・人との関わり等に関する項目 ―

Q8 自分には、よいところがあると思いますか



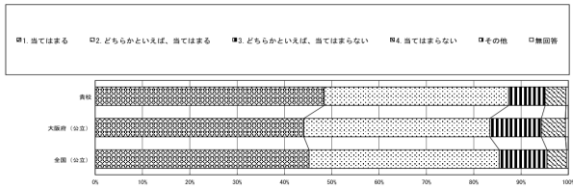
肯定的回答は 76.9%で、府 82.2%、全国 84.0%を下回った。特に「当てはまる」と強く肯定した生徒は 24.2%で、府・全国との差が見られる。自分のよさを感じていないというよりも、他者と比べたり、できていることを当たり前と捉えたりして、自分の持ち味や成長を十分に自覚できていない生徒もいると考えられる。他者との比較や、学習の成果だけでなく、挑戦したこと、工夫したこと、粘り強く取り組んだ過程などを具体的に認め、小さな成功体験を積み重ねることが大切である。今後も仲間同士でよさを伝え合う機会や、自分の得意なこと・大切にしていることを振り返る場を設けたい。小さな成功体験を積み重ね、自分らしさを肯定できるよう支えていきたい。

Q13 困りごとや不安があるとき、学校の大人に相談できますか



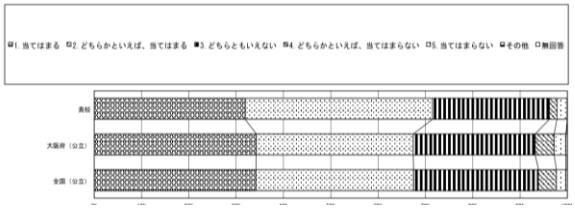
肯定的回答は 72.0%で、府 74.1%とほぼ同程度、全国 71.9%をわずかに上回った。多くの生徒が相談できると感じている一方で、困りごとや不安を抱えていても、自分から声を上げることが難しい生徒がいる可能性も考えられる。相談しやすさは、相談窓口を知らせるだけでなく、日頃から教職員が話を聞き、気持ちを受け止めてくれるという実感によって支えられる。担任だけでなく、学年や学校全体で生徒の様子を共有し、普段と異なる小さな変化を見逃さないようにしたい。何かあったときに誰にでも相談できる関係づくりを進めるとともに、積極的に対話の機会をつくっていきたい。

Q15 学校に行くのは楽しいと思いますか



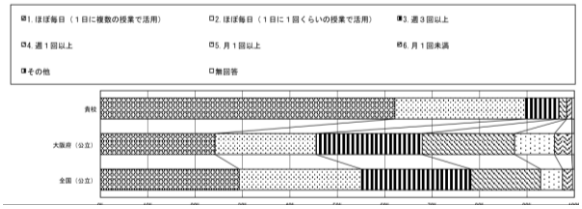
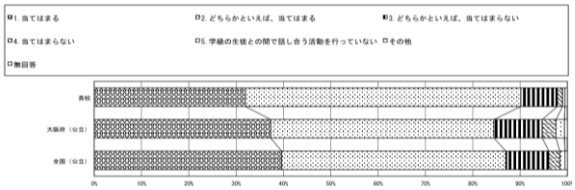
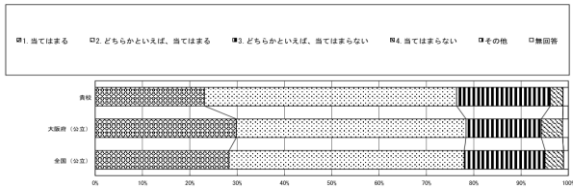
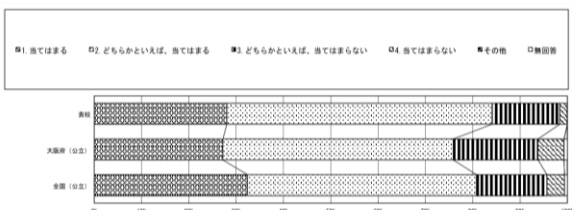
「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答は 87.4%で府 83.4%、全国 85.4%を上回った。多くの生徒が学校生活を前向きに捉えていることは、本校の大切な強みである。日々の授業や行事、友人との関わり、教職員による日常的な声かけなど、学校生活のさまざまな場面が生徒の安心感や楽しさにつながっていると考えられる。このよさを一部の生徒だけのものにせず、一人ひとりが自分の居場所や役割を感じられる学級・学年づくりを続けていきたい。生徒の表情や小さな変化にも目を向け、互いに認め合える関係を育てることで、誰もが安心して通える学校づくりにつなげていく。

Q20 人と違う意見を言っても否定されないと思いますか



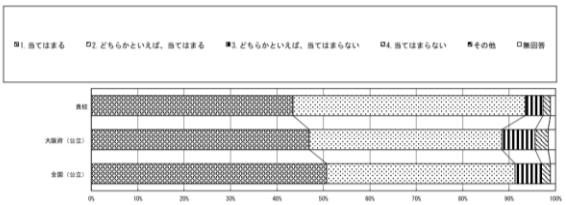
肯定的回答は 71.5%で、府・全国の 67.5%を上回った。自分と異なる意見を伝えても否定されないと感じている生徒が、府・全国より多いことは、本校の学級や授業における対話の土台として大切にしたい成果である。考え方の違いを認め合い、安心して発言できる雰囲気が、話し合いや協働的な学びを支えていると考えられる。一方で、肯定的回答の中にも不安を感じている生徒がいることを意識する必要がある。間違いや少数意見を大切にすること、発言を最後まで聞くこと、意見の違いを理由とともに考えることなど、教室での安心感を維持するためのルールを共有したい。誰もが自分の考えを表現できる環境を、授業や学級活動の中で継続して育んでいく。

生徒質問紙より ― 学び方・協働・探究・ICT 等に関する項目 ―

Q35 授業で ICT 機器をどのくらい使用していますか  	「ほぼ毎日、1日に複数の授業で活用」と回答した生徒は62.1%で、府 24.2%、全国 29.3%を大きく上回った。授業の中で端末を日常的に活用する環境が整い、提出や情報収集、考えの整理・共有など、学習のさまざまな場面で ICT を使用することが定着している。本校の大きな強みとして、今後も生かしていきたい。使用頻度の高さだけで学びの深まりが保証されるわけではないため、思考を促す活用と情報モラルの指導を両輪として進めていきたい。
Q42 話し合いを通じて考えを深めたり、新たな考えに気付いたりできますか  	肯定的回答は 90.1%で、府 84.5%、全国 87.0%を上回った。話し合いを通して考えを深めたり、新たな考えに気付いたりしている生徒が多く、授業の中に対話や協働の場面が定着してきていることがうかがえる。話し合い活動を取り入れた授業改善が進んでいることが本校の強みであるが、その一方で、話し合いを行うこと自体を目的とせず、まず一人で考える時間を確保し、友達の考えに触れて自分の考えがどう変わったかを振り返ることが重要である。思考の変化や考える過程を具体的に価値付け、次の学びにつなげることで、生徒が考え続ける学びを充実させたい。
Q44 学んだことを次の学習や実生活に生かしていますか  	肯定的回答は 76.4%で、府 78.3%、全国 78.0%をやや下回った。学習した内容を理解することに加え、それを次の学習や実生活の場面で使えると実感することには、まだ伸びしろがあると考えられる。自分で学び方を工夫することや、分かった点・分からなかった点を振り返って次につなげることにも課題があると考えられるため、授業の終わりに「何が分かったか」だけでなく、「どの考え方が使えそうか」「次にどう生かせるか」を振り返る時間を設けたい。また、個で考える時間と他者と共有する時間を意図的に組み合わせ、教師からのフィードバックを通して学び方を自覚できるようにしたい。
Q47 総合的な学習で課題設定・情報収集・整理・発表に取り組んでいますか  	肯定的回答は 84.0%で、府 75.9%、全国 80.8%を上回った。課題を設定し、情報を集め、整理して発表する一連の探究的な学習活動に取り組んでいることが、生徒の実感として表れている。3年間を見通した探究課題や、職種体験（職場見学）・防災学習など地域と関わる学習の成果であると考えられる。一方、地域や社会をよくするために何かしてみたいという Q33 の肯定的回答は 56.1%で、府・全国を下回っている。調べて発表するところで終わらず、学習内容を自分の生活や地域の課題と結びつけることが必要である。地域の人や団体と共に考え、課題解決に向けて自分にもできることがあると感じられる機会を広げていきたい。

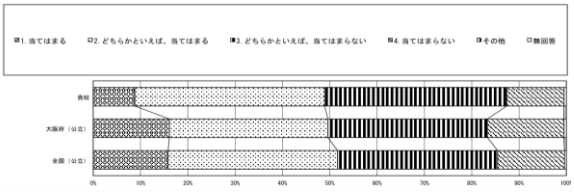
生徒質問紙・教科調査より ― 道徳・教科の学び等に関する項目 ―

Q51 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



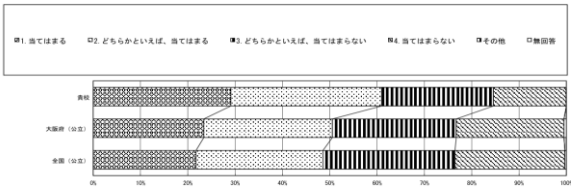
肯定的回答は 93.4%で、府 88.5%、全国 91.3%を上回った。一方、「当てはまる」と強く肯定した割合は 43.4%で、府 47.0%、全国 50.7%を下回っている。多くの生徒が道徳の授業で考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいると感じているものの、その学びを十分に実感できていない生徒もいると考えられる。今後は、考えを広げたり揺さぶったりする発問や、ペア・小グループなど話し合いの形態を工夫したい。また、友達の意見で印象に残ったことや、自分の考えがどのように変わったかを振り返る時間を充実させ、対話を通して考えを深める道徳の授業につなげていきたい。

国語 Q52 国語の勉強は得意ですか



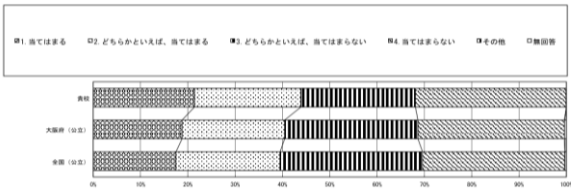
「国語が得意」は 48.9%、「好き」は 53.9%で、いずれも府・全国を下回った。一方、「授業がよく分かる」は 86.2%で、府・全国を大きく上回っている。教科調査でも平均正答率は府・全国を上回り、文章の構成や根拠を意識して読み取ること、相手や目的に応じて表現を工夫することなど、着実に力が身についている。授業を理解し、力をつけていることと、生徒自身が「得意」「好き」と感じることの間に差があると考えられる。国語は身についた力が見えにくい面もあるため、学習の目標や評価の観点を具体化し、読み方や表現の工夫など、できるようになったことを丁寧に伝えたい。自分の成長を実感できる場面を増やし、言葉を通して考えるおもしろさにつなげていきたい。

数学 Q60 数学の勉強は得意ですか



「数学が得意」は 61.0%、「好き」は 68.1%で、いずれも府・全国を上回った。教科調査の平均正答率も 63%で、府 55%、全国 57.0%を上回っており、学習内容の理解や問題解決に手応えを感じている生徒が多いことがうかがえる。数学は答えが明確な場面が多く、解決にたどり着いた経験が「分かった」「できた」という実感につながりやすいことも背景にあると考えられる。今後は正答に至ることだけでなく、複数の解き方を比べたり、考え方の根拠を説明したりする活動を充実させたい。さらに、数学で学ぶ考え方が生活や社会の中でどのように役立つのかを具体的に扱い、学ぶ意味を実感できる授業づくりを進めていきたい。

英語 Q69 英語の勉強は得意ですか



「英語が得意」は 43.9%、「好き」は 54.4%で、いずれも府・全国を上回った。英語3技能の平均正答数も 4.1／7 問で、府・全国の 3.7 問を上回っており、学習への前向きな意識と一定の成果が見られる。一方、授業で学んだ語彙や文法を実際に使い、自分の考えを伝える機会をさらに充実させることが大切である。既習事項の中から目的に合う表現を選び、相手に伝わるように工夫する活動や、まとまりのある英文を書く活動を授業の中に位置付けたい。また、聞いた内容に応じて返答するなど、聞く・読む・話す・書く力を関連付けた学習を進め、英語を使って伝わる喜びを感じられるようにしたい。